

マンガ+おもしろい解説で楽しく学ぶ! 歴史人物・できごと新事典

対象 小学校高学年以上

仕様 A5判・2C／511p（本文454p）

作業内容 構成提案・原稿執筆・編集校正・図版用資料収集

作業期間 18か月（企画段階もふくむ）



本書表紙



この仕事のポイント

- 「おもしろい」読み物になるように、取り上げる人物、トピックスや文章に工夫した。
- 最新の“できごと”“人物”も、豊富に掲載。例)「ビジネスジェット、初公開」(2015年4月)
- ユニークかつ正確・わかりやすいイラストのための、参考資料収集を目指した。

心がけたこと①

- かた苦しくならないような「インパクトのある見出し」「楽しいキャッチコピー」をつけるようにしました。



ページ例

世界の人物

モーツアルト

大量生産
ルート



オーストリア

ベートーヴェン

ない世界



1770~1827

心がけたこと②

- メリハリのある紙面になるように、主要人物のエピソードをマンガで見せ、「〇〇な話」「〇〇の名言」などのコラムをいれて、変化に富んだ紙面にしました。

EDIT エディットの強み

- 小学社会の教科書内容を熟知しているので、とくに中学受験を予定している児童にも必要な知識を的確にまとめることができます。
 - 「学校教材のノウハウを一般書へ」というエディットの強みから、この書籍テーマを「大人向け」に仕立て直すことができます。

掛け合なしの新商売で大成功

■140 三井高利

商人 江戸時代

1622~94年
伊勢の国出身

三井高利って、どんな人?

江戸で呉服店を開き、ライバル店を押しのけ大成功。その商人には、くれた商人でもあつた母親の教えに忠実なのがいたそうだ。

画期的な商人

高利は甲斐の国人「三重県」に生まれた。商人の家系で、14歳で江戸へ出て呉服屋を営む兄のもとへ修業

に出た。高利は商才を發揮するんだけど、十数年ほど経つて、年老いたいたいの面倒を見るもんじよ、実家から戻されてしまつんだ。

前ままで「越後屋」をオーナーとする。越後屋はそれまでの呉服屋ではあたりがけ(利子)が上乗せされていた。現金払いにするかわりに掛け合をなくし、値段を安くした。また、反物も一反から端切れまで販売した。欲しい分量をその場で買えた。越後屋は庶民にも大人気だった。

三井財閥のもとに上がるんだよ。

伝説に残る一代かぎりの豪商

■141 紀伊国屋文左衛門

商人 江戸時代

1622~94年
伊勢の国出身

紀伊国屋文左衛門って、どんな人?

活躍は一代かぎりだったけど、商人のつかひや豪遊(こうゆう)ばかりはまさに伝説が残されている。

伝説の豪商

文左衛門は紀伊の国(和歌山県)に生まれた。20代のころ、荒波(こうば)で船員(ふねぐみ)を江戸へ運んで

橋(はし)を渡(わた)るとき、舟(ふね)に材木(ざいもく)店を開(ひら)いたといわれている。

江戸では材木店は少(すくな)いが、まだ將軍の側(わき)に材木店を開いたといわれた。文左衛門がどこでは大手(おほて)の材木店を買(い)い、木建設業(ぼくせつぎょう)を始めた。幕府の柳沢吉保(やなぎざわよしふさ)や萩原豊秀(はぎわらとよひで)などに気に入られ、仕事をうけねがつりになつたんだ。

「袖(そで)の下(わき下)」(わきご)をつたともいわれる。

もつけを得(と)るだけじゃなし。お金を使(つか)うのも豪快(ごうかい)で、一腕(うで)で千両(せんりょう)も使(つか)ったとか、じろん(じろん)な活躍(かつやく)があられるよ。

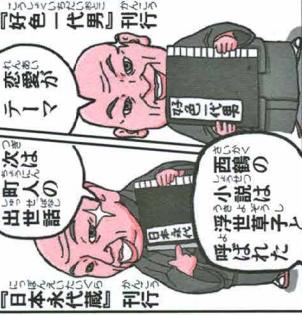
でもその活躍は一代かぎり。江戸退廃(しりぞひ)は、買(い)い占(うめ)めた材木(ざいもく)が火事(ひじ)で焼(や)けて大損(おほそん)して落ちぶれたともたくねえた富(と)ゆつゆつと余生(よじやう)を送(おと)送(おと)つたといわれてつる。

クイズ?

文部省の「ユーコン

■142 井原西鶴

俳諧師・小説家 江戸時代

1642~93年
河内(かわち)の国出身

一晩に2万回

西鶴は河内(かわち)の国人(大阪府)の福(ふく)富(とみ)人の家(いえ)に生まれた。本名(ほんめい)は平山藤五(ひらやまとうご)といつた。西鶴に恋(こい)い自由(じゆゆう)なスタイルで、諺林派(ごんりんばい)と呼ばれていた。西鶴はすぐれた句(く)をつくり、21歳(さい)のときには脚(あし)匠(しやう)になつた。

次に「好色一代男」(行)で恋(こい)い自由(じゆゆう)な女性(めいせい)の恋(こい)いにまつわる小説(こせつ)「好色一代男」などを書(か)いていた。その後(ご)は「武家物(ぶけもの)」を書(か)いたんだ。その後(ご)は「武家物(ぶけもの)」で力(ちから)タキ(たけ)や義理(ぎり)といった武士(ぶし)の生き方(いかん)を描(か)いていた。

人々の生き様

西鶴は1682年(江戸時代)に小説「好色一代男」を書き、大ヒットを飛(と)ばす。西鶴が描(か)いたの

は、この世(よの)に生きる人々の生活(せいかつ)や喜怒哀樂(きぬあいらく)の気持ち、すなはち浮世(うきよ)の生活(せいかつ)。教訓(くうくん)・道徳(どうとく)を主(おも)とした仮名草子(かみのそうし)を発展(はっせん)させ、浮世草子(うきよのそうし)と名(な)づけられた。

西鶴のヒットにつれて、西鶴は「八百屋(やしろや)」など5人の女性(めいせい)の悲(かな)れ話を「好色五人女(ごじんめい)」などと名(な)づけた。

西鶴の悲(かな)れ話を「好色五人女(ごじんめい)」などと名(な)づけた。

西鶴

郷土の発展につくした人々

このページでは、郷土の発展につくした人々を、時代を向わずに複数掲載しました。

